

自治体の働き方改革

働き方改革関連法などの法体系について理解を深めるとともに、働き方改革は福利厚生の一環ではなく経営戦略であるという認識のもと、ワークライフバランスの実現に向けた取組みに関する講義や事例紹介等により、自治体での働き方改革に必要な知識の習得と実務遂行能力の向上を目指します。

この研修は、申込期限までに定期人事異動の関係で受講者を確定できない場合でもお申込みいただけます。

日程 令和5年6月19日(月)～6月23日(金) (5日間)

場所 市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)
千葉市美浜区浜田1丁目1番地

対象 市区町村職員 中堅職員以上
総務・人事・職員関係等の、職員の働き方改革やワークライフバランス推進の旗振り役となっている部署の担当職員を対象とします。

定員 40名

経費 8,800円(食費を除きます。また、教材用図書費が別に必要となる場合があります。)

申込期限 令和5年4月11日(火)

申込方法 ※当研修所ホームページの「募集中の研修」より申込みを希望する科目を選択し、「電子申込み」で申し込んでください。(「電子申込み」が難しい場合には、「研修受講申込書」に必要事項を記入の上、FAXにより送信してください。)

※受講者が未定な場合でも、申込み可能です。

申込み・問合せ先 ♣ ♣ ♣ ♣ ♣

市町村職員中央研修所 研修部

TEL 043-276-3126 FAX 043-276-8484 URL <https://www.jamp.gr.jp>

※記載内容は、都合により変更となることがありますので、あらかじめ御了承ください。

※当研修所では、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止のための一定の措置を講じた上で、研修を実施しています。

6月19日/月

13:30 - 15:00
入所

15:30 -
オリエンテーション・開講式

17:00 - **討議**
課題演習

6月20日/火

9:00 - 10:35 **講義**
自治体における働き方改革の取組状況 自治体における働き方改革の取組状況などの現状について学びます。

総務省自治行政局公務員部公務員課

10:50 - 12:00 **講義**
働き方の変化と課題(体験談を基に) 国家官僚として長年働いてきた講師の体験談を通じて、これまでの日本の働き方とその変化について考えます。

市町村アカデミー学長

岡本 全勝

13:00 - 17:00 **講義・演習**
なぜ日本の働き方は変わらないのか～他国との比較において考える～ 書籍「人事の組み立て～脱日本型雇用のトリセツ～」の著者である講師から日本と他国の雇用制度の違い等について学んだ上で、日本の働き方が変わらない原因を考えます。

雇用ジャーナリスト、
厚生労働省労働政策審議会人材開発分科会委員、
大正大学特命教授、
中央大学大学院戦略経営研究科客員教授

海老原 嗣生 氏

17:00 - 17:45 **討議**
課題演習 数人の演習班に分かれ、各市町村が直面する政策課題をテーマとして、自主的なグループ討議を行います。

6月21日/水

9:00 - 14:10 **講義**

実例を通じて考える働き方改革 ～今後どのような働き方が求められているのか～

株式会社ワーク・ライフバランス
上級シニアコンサルタント
村上 健太氏

働き方改革は福利厚生の一環ではなく経営戦略であるという考え方に基づいて、組織・社会・個人それぞれにとってなぜ働き方改革が必要なのか等について学びます。

14:25 - 15:35 **レクチャー&フォーラム**

事例紹介

会津若松市総務部人事課副主幹
岡部 真志氏

会津若松市において進めている働き方改革の取組みについて学びます。

15:50 - 17:45 **討議**

課題演習

6月22日/木

9:00 - 12:00 **討議**

働き方改革に関する法令と自治体職員

弁護士（弁護士法人淀屋橋・山上合同）
渡邊 徹氏

働き方改革に関する法令とその課題について学びます。

13:00 - 15:35 **レクチャー&フォーラム**

課題解決フォーラム

株式会社千正組代表取締役、元厚生労働省官僚
千正 康裕氏

書籍「ブラック霞が関」の著者である講師の体験談等を通じて、公務員固有の労働環境について考えた後、グループに分かれて解決方法について意見交換を行います。

15:50 - 17:45 **討議**

課題演習

Time Schedule

6月23日/金

13:00 - 12:00 **発表・講評**

課題演習

株式会社ワーク・ライフバランス
上級シニアコンサルタント
村上 健太氏

株式会社ワーク・ライフバランス
上級コンサルタント
二瓶 美紀子氏

各班の討議結果を、発表用レジюмеを用いて、全員の前で順次発表し、質疑応答や意見交換を行います。その後、講師から講評をいただきます。

12:10 -

修了式

M E M O

Blank lined area for notes.